

# 失敗を形成する、4つの要因

そもそも、人はいつ失敗するのか？

「安全だと思っていた」「心の片隅に危険の文字が消えた」……。農作業事故はその隙間からやってきます。

## 慢心

簡単に言ってしまう  
えば、なめてかかる  
ことです。毎日同じ  
作業になる畜産業  
では特に起こりや  
すく、作業を始める  
時やいつもと違う  
時に『これは安全  
なのかな』と考える  
ことが大切になり  
ます。

## 前提の相違

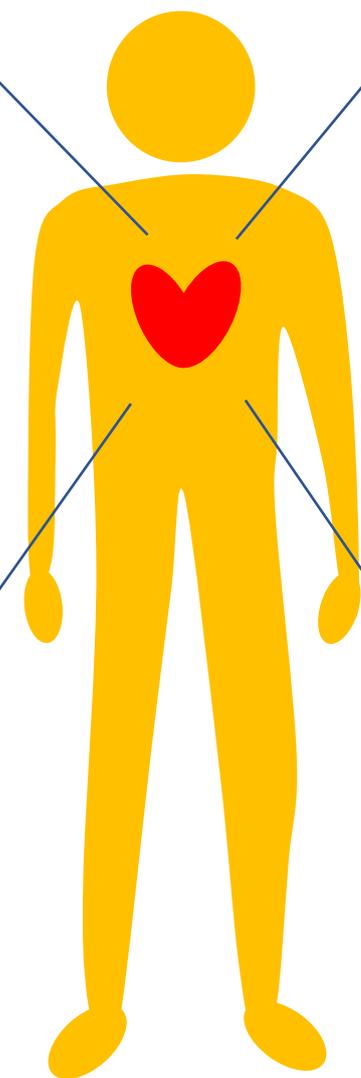
前提が間違えてい  
ると、結果も間違え  
ます。例えば「この  
牛はおとなしいか  
ら絶対に蹴らない」  
と思い作業したら、  
「乳房炎に罹患し  
ているのに気付か  
ず蹴られて骨折し  
た」という事例が考  
えられます。

## 思い込み

人間が犯す失敗の  
6~7割は「思い込  
み」と言われており、  
思考も停止させる  
非常に怖い存在で  
す。『万が一はあり  
得る』と考えましょ  
う。責任者は特に必  
要となります。

## 情報の不足

ここでの情報不足  
とは、自分たちの  
置かれている状況  
が正確に把握して  
いないことを指しま  
す。『事故はどうし  
て起こるのか、まず  
頭に叩き込む』こ  
とが大切です。



## 具体的に、失敗を考える

- 鎌で手を切る -

### 慢心

これまで鎌で手を  
切るなんてヘマは  
していない

### 前提の相違

鎌は大して危険な  
道具ではない

### 思い込み

鎌は角度さえ気を  
付けて使えば大丈夫

### 情報の不足

鎌で大ケガする話  
は聞いたことがない



「鎌で手を切る」を例にします。4つの要因をイラストのように考えて、見直す機会もないまま身体に染み付くと、最終的には何も考えなくなります。そして鎌を持つときに「手を切る」という発想も無くなり、ある日突然事故が発生します。

ケガに「経験の長短」や「体力や腕力の有無」は関係ありません。それぞれの立場で、労働安全を今一度冷静に見つめなおしましょう。